

## はじめに

千葉県では、平成20年3月26日に全国に先駆けて生物多様性地域戦略として「生物多様性ちば県戦略」を策定しました。生物多様性は、地域ごとに固有の生態系を形成し、食料、木材、燃料などの資源や、きれいな空気、水、土壤を提供し、気温、湿度などの環境を調節してくれます。また、豊かな人間性を育む教育、芸術、レクリエーションなどの場や材料を提供してくれます。こうした生物多様性を保全・再生し、持続可能な利用を進めることは、私たちの身近な生活環境においても大切なことです。

このため、千葉県では「生物多様性ちば県戦略」に基づく取組の一つとして、平成20年度から「生物多様性体験学習推進事業」を開始し、学校ビオトープの整備、改修およびその活用を進めることとしました。学校ビオトープを生物多様性の保全・再生の場として、また環境学習の場として、地域の自然とふれあうための窓口として、次の2つの取組を中心と推進していくこととしています。

(1)学校ビオトープの整備、改修及びその活用を支援する「生物多様性体験学習推進事業補助金」により、地域の拠点となる学校ビオトープの整備を推進します。

(2)学校ビオトープの整備・活用の事例などから、整備・活用の手法などを学び、今後の整備、活用などの方向性を探る「学校ビオトープフォーラム」を開催します。

学校ビオトープフォーラムは、「生物多様性体験学習推進事業補助金」により整備された学校ビオトープを中心に、整備・活用の内容、そこで見られる生物、維持管理の方法などを発表していただく場であり、このフォーラムを契機として、学校間や県と学校の間に連携が生まれ、ビオトープの整備・活用がより一層広がっていくよう願っています。

※本冊子には、ビオトープフォーラムで発表を行う学校ビオトープの概要、コンセプト、生息している生物、活用方法や効果などを収録しました。

## ビオトープとは

ビオトープとは、ギリシャ語の「生物」を意味する **Bios** と「場所」を意味する **Topos** を語源としたドイツ語で、直訳すると「生物の生息・生育空間」となります。1990年ごろから盛んに使われるようになりましたが、その概念については様々な考え方があります。

千葉県では、ビオトープを「多様な、または貴重な野生生物が生息・生育する空間であり、その状態を保持または目指して管理される場所」と定義しています。

## 学校ビオトープの現状(各学校の事例から)

### 学校ビオトープの形態

学校ビオトープの形態は、小川、池、水田などの水辺空間を整備するケースが多くなっています。これは、水辺には多くの生物が生育・生息すること、観察や管理がしやすいことなどが考えられます。

また、水辺空間と学校内や周辺にもともとある森を一体的に捉えてビオトープとして活用しているケースも見られます。

### 学校ビオトープに生息・生育している生物

生物については、周辺に昔からいるメダカ、ドジョウ、フナなどを導入し、外来種はできるだけ入ってこないようにしているケースが多くなっています。

そして、環境が整ってくると、植物や昆虫、両生類、野鳥などが自然に定着してきています。

また、以前にその地域や周辺に生息していたホタルの復活に取り組んでいる学校もあります。

### 学校ビオトープの活用

学校ビオトープは、理科、生活科や総合学習で、生物の飼育や観察、水田の体験などにより、命の大切さや、自然・生態などについて学習する場として主に活用されています。

また、遊びの場として、休み時間・放課後に活用されたり、理科クラブなどの活動の場としても活用されています。

さらに、休日や参観日などに保護者や地域住民に開放するケースも見られます。

### 学校ビオトープにおける地域との連携

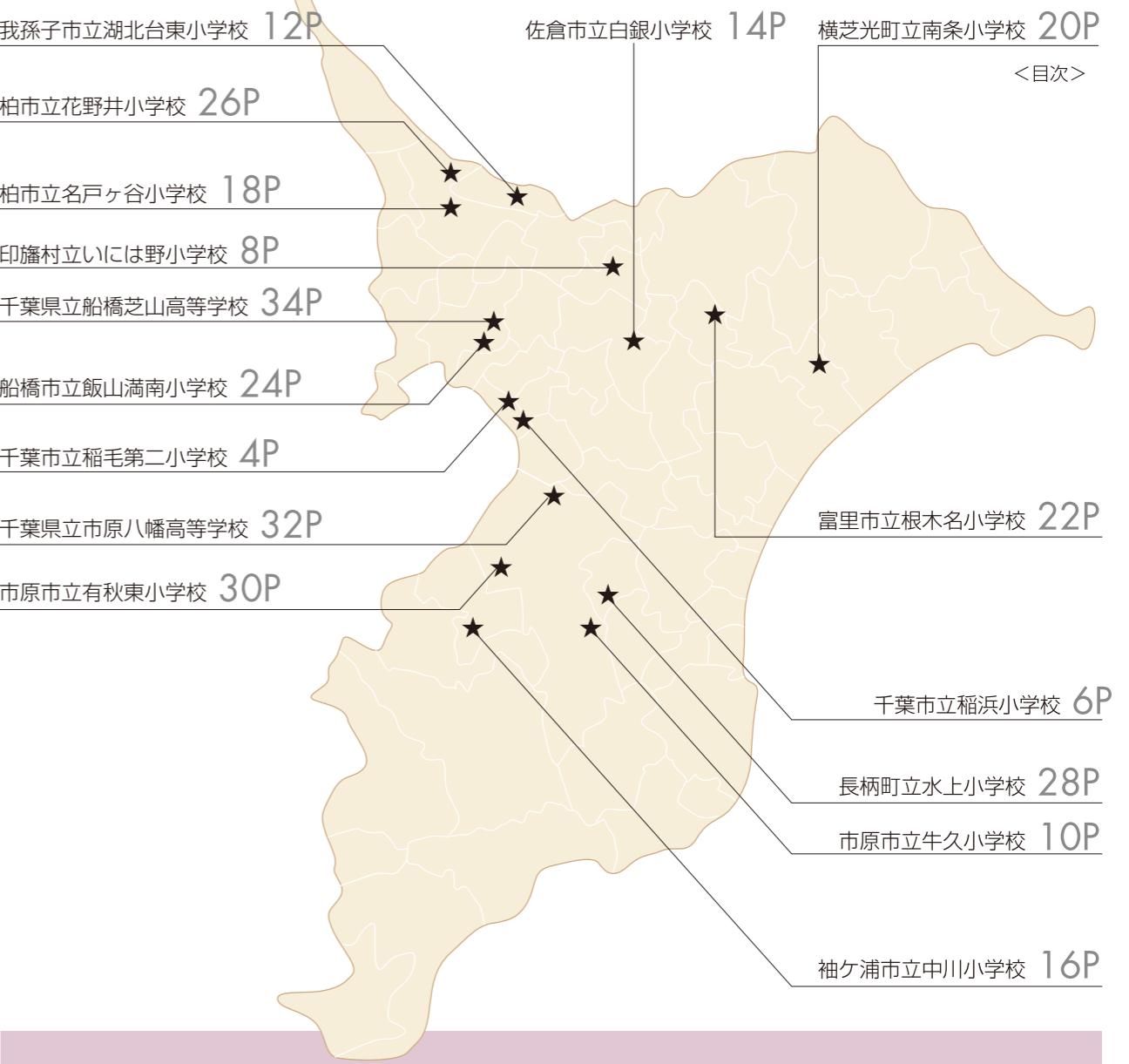
学校ビオトープの整備・管理・活用については、教職員や児童・生徒だけで行うのではなく、保護者、地域住民やNPOと連携して行われています。みんなで力を合わせてビオトープを支えていくことにより、継続した活動になっていくとともに、地域の人と人を結んでいく効果もあります。

### 今後の課題

学校ビオトープの整備にあたっては、児童・生徒の主体的な参加のもと、周囲の自然環境をよく調べた上で、現在ある自然環境を活用することを含めて、どのような環境を実現し、どのような生物を生育・生息させるかを十分に検討する必要があります。

また、学校ビオトープの活用にあたっては、様々な学習プログラムの開発や年間の授業計画に位置づけるなど効果的な活用について考えていく必要があります。

## CONTENTS



&lt;目次&gt;

